

就任のご挨拶

乳腺外科
笹原 麻子

はじめに

2025年9月に外科/乳腺センターに着任いたしました、笹原麻子と申します。これまで主に東京大学医学部附属病院において乳腺外科医として乳がん診療に従事してまいりました。外科専門医、乳腺専門医・指導医に加え、遺伝性腫瘍専門医の資格も取得し、手術治療のみならず、周術期管理や遺伝医療を含めた包括的な乳がん診療に携わってきました。

このたび、2025年4月より東京通信病院の乳腺外科が常勤不在となる中、ご縁をいただき赴任することとなりました。地域の皆様に信頼される乳腺診療を提供できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

一人ひとりの生活を尊重した医療を提供

日本では乳がん罹患する女性が年々増加しており、現在では9人に1人が生涯のうちに乳がんを経験すると言われています。当院では、乳腺にしこりや違和感などの症状、検診での異常所見に対し、画像検査や病理検査を適切に組み合わせ、正確な診断を行うことを大切にしています。

乳がんと診断された場合には、治療開始までの期間をできるだけ短くし、さらに医師・看護師・薬剤師・放射線技師など多職種と連携しながら、一人ひとりの生活背景や価値観、ご希望を尊重し、安心して治療を受けていただけるよう丁寧にサポートいたします。

「2ドクター制」を重視した診療体制

近年、外科医不足が社会的な課題となっています。当院においても、現在乳腺外科の常勤医は1名体制で診療を行っています。新規の乳がん患者さんを受け入れつつ、迅速かつ安全な医療を継続するため、当院では「2ドクター制（ふたり主治医制）」を重視しています。

乳がん診療では、術後に5年から10年に及ぶホルモン療法が必要となることも少なくありません。術後経過が良好で、内服治療の副作用が落ち着いている患者さんについては、紹介元や地域のクリニックと連携し、処方や経過観察をお願いしています。

この体制により、当院での専門的な治療と、ご自宅近くでの継続的なフォローアップの両立が可能となり、患者さんにとって「いつでも相談できる主治医が二人いる」安心感につながると考えています。

おわりに

赴任から約5か月が経過し、大学病院とは異なる、コンパクトでアットホームな当院の魅力を日々実感しています。乳がん治療は、手術・薬物療法・放射線療法などを組み合わせたチーム医療です。患者さんの不安に寄り添いながら、安心して治療を受けていただける乳腺センターを目指し、スタッフ一同力を合わせて診療にあたっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

